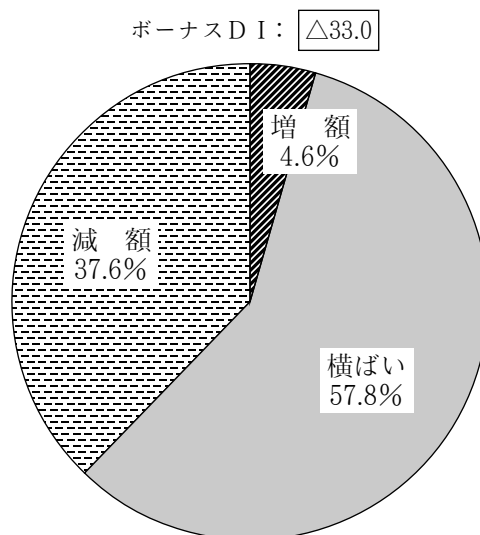


2020. **12**
No. **206**

調査レポート

2020年冬季
県内民間ボーナス支給見通し
－ 減額傾向が強まり、ボーナスDIは一段と低下 －

冬季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第89回県内企業経営動向調査」から

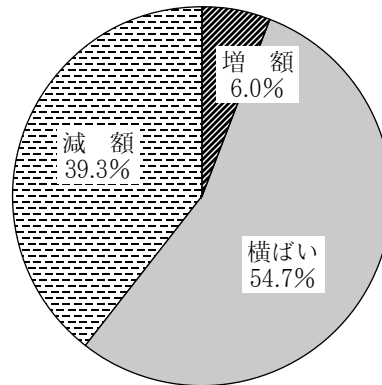
当行の第 89 回県内企業経営動向調査（10 月上旬実施、回答企業 313 社）によると、今冬のボーナス支給予定額は、昨冬の支給額に対して「増額」回答先割合が 4.6%（昨冬調査 7.4%）、「横ばい」回答先割合が 57.8%（同 80.5%）、「減額」回答先割合が 37.6%（同 12.1%）となった。

この結果、冬季のボーナス D I（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は、昨冬（△ 4.7）と比べて 28.3 ポイント低下の△ 33.0 となり、1977 年の調査開始以来、冬季としては 1998 年調査と並び、過去 2 番目に低い水準となった。このように、今冬のボーナスは、夏に続き厳しい状況が予想される。

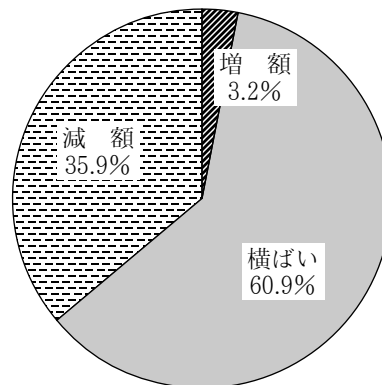
ボーナス支給に影響を与える要因のひとつである県内経営者の景況感、今回実施した企業経営動向調査において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う需要減退などの影響で大幅に悪化した。また、企業業績も、2020 年度上期の売上 D I、収益 D I（「増加」回答先割合－「減少」回答先割合）が 1977 年の調査開始以来

冬季民間ボーナス支給見通し

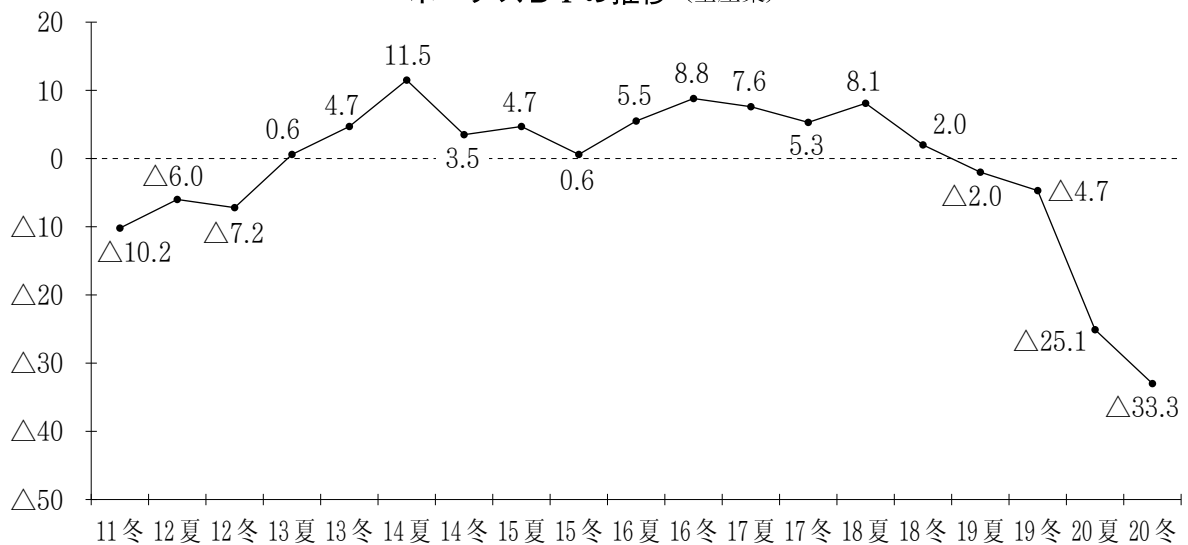
（製造業） ボーナス D I： △33.3



（非製造業） ボーナス D I： △32.7



ボーナス D I の推移（全産業）



●— ボーナス D I（注）

（注）DI =（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

過去最低となっており、中堅・中小企業を取り巻く環境が厳しさを増している様子が窺われる。先行きについても、幾分厳しさは和らぐものの、引き続き減収減益を見込む先が多くなっている。

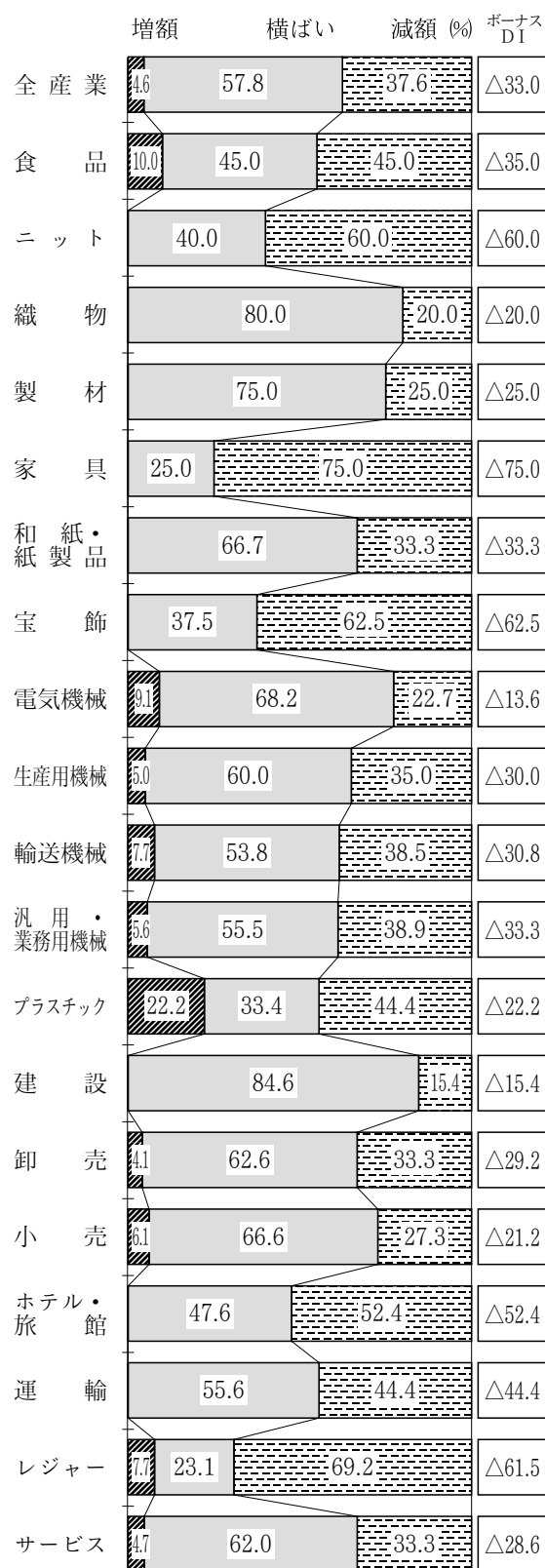
影響を与えるもうひとつの大きな要因である雇用情勢も、悪化を辿っている。企業経営動向調査において、雇用の充足感が2011年度上期調査以来18期ぶりに「過剰」先が「不足」先を上回ったほか、現状人員を維持しながらも新規雇用を抑えようとする姿勢が窺われる。また、有効求人倍率も、このところ1倍を下回る水準で推移している。

こうした企業業績や雇用情勢の悪化を背景に、ボーナス支給額を削減する動きが広範囲に広まったものと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が6.0%（昨冬9.3%）、「減額」回答先割合が39.3%（同17.3%）となった。この結果、ボーナスDIは△33.3と、昨冬（△8.0）と比べて25.3ポイント低下し、4期連続の「減額」超となった。このうち機械関連では、汎用・業務用、輸送、生産用、電気の全機械で「減額」超となった。機械関連以外でも、すべての業種が「減額」超となっており、特に家具で7割以上、宝飾、ニットで6割以上の先が減額を見込んでいる。

非製造業は、「増額」回答先割合が3.2%（昨冬5.4%）、「減額」回答先割合が35.9%（同6.8%）となった。この結果、ボーナスDIは△32.7と昨冬（△1.4）と比べて31.3ポイント低下し3期連続の「減額」超となった。すべての業種が「減額」超となっており、特にレジャー、ホテル・旅館で減額と回答した先が多くなっている。

冬季民間ボーナスの業種別支給見通し



山梨中銀TKC連携ローン

甲斐の三銃士®

担保・保証人不要

最大0.5%優遇

信頼性の
高い財務情報

深度ある事業性の
理解



当行とTKCは連携して、お客さまの成長・経営改善支援に積極的に取り組んでまいります。

ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。